



平成21年8月期 決算説明会

平成21年10月14日

代表取締役社長 日野 洋一



[東証マザーズ 証券コード:2404]

[1] 平成21年8月期 決算概要

平成21年8月期 決算ハイライト (連結)	3	カラオケルーム運営事業 [1] 売上高・利益	8
四半期の概況	4	カラオケルーム運営事業 [2] 店舗数	9
事業別売上高・営業利益 [1]	5	カラオケルーム運営事業 [3] 会員システムの成果	10
事業別売上高・営業利益 [2]	6	フルサービス型珈琲ショップ「からふね屋珈琲店」	11
事業別売上高・営業利益 [3]	7	貸借対照表 (連結)	12
		キャッシュ・フロー計算書 (連結)	13

[2] 平成22年8月期 業績見通しと経営戦略

平成22年8月期の業績見通し (連結)	15	今後の課題の施策	18
ポイント [1] 店舗戦略	16	株主還元 (配当金・EPS・自己株式の取得)	19
ポイント [2] Webを使ったサービスの拡充	17	IR担当窓口	20

参考資料

会社概要 (平成21年8月末現在)	22	店舗紹介	24
カラオケルーム市場の現状と見通し	23	株主優待制度	25



[1] 平成21年8月期 決算概要

平成21年8月期 決算ハイライト（連結）

TETSUJIN

（単位：百万円）

	H20/8月期	H21/8月期 （計画）	H21/8月期 （実績）	前年対比	計画対比
売上高	7,114	7,430	7,074	99.4%	95.2%
営業利益	564	662	405	71.8%	61.2%
経常利益	529	620	349	66.0%	56.3%
当期純利益	118	219	123	104.1%	56.3%
EPS（円）	3582.94	6,626.50	3,811.77	—	—

※計画値は、平成20年10月15日開示

- 景気悪化による影響は受けているものの、身近で手軽なレジャーとして比較的健闘。
- 首都圏でのシェア拡大を図るため、積極的にカラオケ店舗7店を新規出店。イニシャルコストの負担により、営業利益に影響。

(単位:百万円)

決算期	平成21年8月期							
	第1Q (9-11月)	前年 同期間比	第2Q (12-2月)	前年 同期間比	第3Q (3-5月)	前年 同期間比	第4Q (6-8月)	前年 同期間比
売上高	1,643	104.0%	1,973	99.8%	1,780	96.8%	1,677	97.8%
売上原価	1,440	105.8%	1,427	102.0%	1,397	100.4%	1,382	96.9%
売上総利益	202	92.7%	545	94.3%	383	85.5%	294	102.2%
販管費	267	116.2%	255	109.2%	248	100.3%	249	97.1%
営業利益	64	575.2%	290	84.2%	134	67.2%	45	145.2%
営業利益率	3.9%	-	14.7%	-	7.5%	-	2.7%	-
経常利益	84	403.7%	275	83.1%	113	62.2%	44	123.9%
税引前純利益	89	120.1%	277	137.5%	99	77.4%	4	23.8%
当期純利益	77	119.1%	152	188.2%	48	48.8%	0	4.6%

事業別売上高・営業利益 [1]

TETSUJIN

※売上高にはセグメント間の内部売上高または振替高を含んでおります。

(単位:百万円)

		平成20年8月期	平成21年8月期	前年対比
カラオケルーム運営	売上高	5,392	5,439	100.9%
	営業利益	1,013	935	92.3%
ビリヤード・ダーツ遊技場運営	売上高	398	354	89.1%
	営業利益	72	38	53.4%

カラオケルーム運営事業

- 深夜帯、週末夜間の来店客の減少により、既存店売上高は前期比92.2%
- 景気の影響に配慮した取り組みとして、企業訪問営業を積極的に実施
- 新規出店:7店舗、 閉店:2店舗(※P9参照)
- 新規店舗は順調に推移

ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業

- デジタルダーツ機の新機種を導入したもののサービスインが遅れる。
また、競合店増加の影響により業績は低迷。



※売上高にはセグメント間の内部売上高または振替高を含んでおります。

(単位:百万円)

		平成20年8月期	平成21年8月期	前年対比
まんが喫茶(複合カフェ)運営	売上高	342	274	80.3%
	営業利益	3	※ 25	769.6%
音響設備販売	売上高	309	488	158.0%
	営業利益	8	50	623.4%

※連結調整勘定償却16百万円を含む



まんが喫茶(複合カフェ)運営事業

- 景気悪化と競争激化の影響で業績は低迷
- 閉店:2店舗(王子店、浦和店)
- 平成22年8月期は黒字の見通し

音響設備販売事業

- 親会社向けの「新会員システム」のソフトウェアならびにイントラ設備の販売を行う

事業別売上高・営業利益 [3]

TETSUJIN

※売上高にはセグメント間の内部売上高または振替高を含んでおります。

(単位:百万円)

		平成20年8月期	平成21年8月期	前年対比
音源販売	売上高	212	168	79.1%
	営業利益	6	※1 ▲0	1.4%
フルサービス型珈琲ショップ運営	売上高	633	674	106.4%
	営業利益	13	※2 22	164.0%
その他	売上高	8	6	77.8%
	営業利益	2	2	83.8%

※1 連結調整勘定償却10百万円を含む

※2 連結調整勘定償却25百万円を含む



音源販売事業

- モバイルコンテンツ配信ASPサービスの拡販に取り組み、今年はじめから黒字化定着。

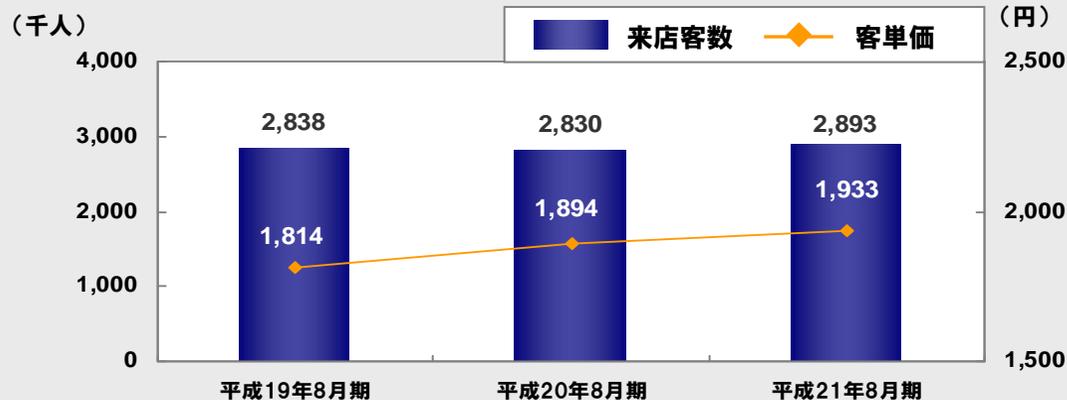
フルサービス型珈琲ショップ運営事業

- 既存店は前期比プラスで推移、安定的な成長がみられる。
- 閉店: 1店舗(円町店)

店舗売上高・売上総利益の推移(平成17年～平成21年)



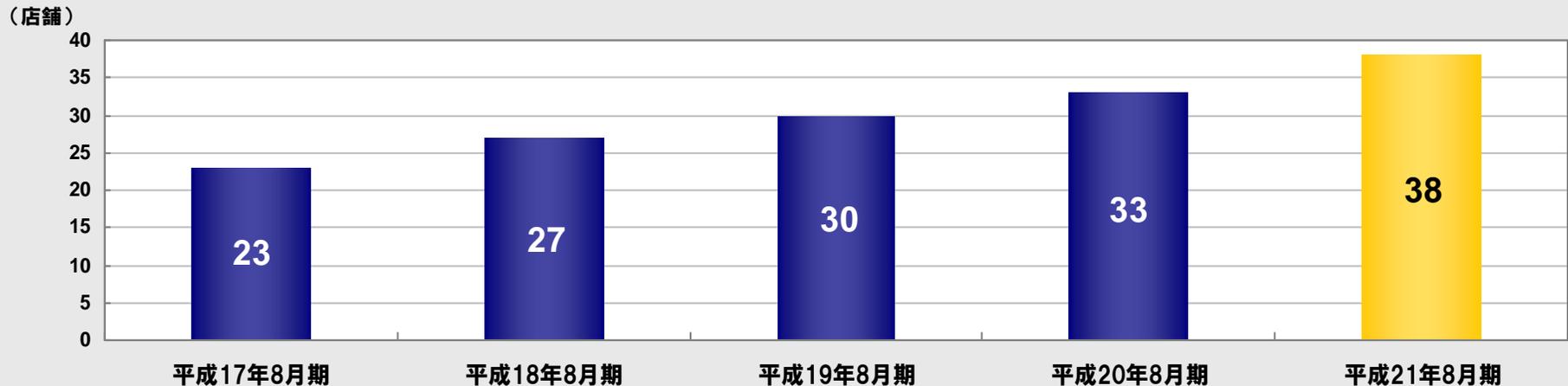
来店客数・客単価の推移(全店)



- 全店客単価、1,933円(+前年比2.0%)
- 全店客数、2,893千人(+前年比2.2%)

⇒ 仕事帰りのサラリーマン・OL等の来店が減少したものの、ヘビーユーザーを囲い込み、安定した顧客基盤を実現

店舗数の推移(平成17年～平成21年)



平成21年8月期の出退店

直営店
38店舗

(平成21年8月期末)

- 不動産価格の下落が追い風となり、店舗網を拡大。[すべて駅前型]
- 目標の2ケタ出店には届かなかったものの、前期の倍以上の店舗を出店でき、いずれも順調に推移(前期出店は3店舗)
 - ◆ 出店 7店舗 (上期:志木店、高円寺店、聖蹟桜ヶ丘店、藤沢店)
(下期:人形町店、川崎店、王子店)
 - ◆ 閉店 2店舗 (上期:札幌店、津田沼店)

平成20年10月、全店に会員システムを導入

- ◆ 「歌うこと」を楽しむコアユーザー層のニーズに応える
- ◆ こだわりの機能と他社にない優れた使いやすさを提供

- 1 会員様専用画面を表示
- 2 「マイ歌本」:好きな歌を200曲まで登録
- 3 「ポイント制度」: 歌の採点結果をポイント加算し、賞品と交換

前期の目標であった
30万人を突破

会員システム登録者数の推移(導入～平成21年9月)



「からふね屋珈琲店」の売上総利益(全店)



売上総利益率15.02%(平成21年8月期実績)

総括

- 5月中旬より、関西圏において新型インフルエンザが流行し、業績が低迷
- 「本店」のメディアへの露出による宣伝効果で、既存店にも良い影響

展望

- 「からふね屋珈琲・本店」のブランドイメージの構築
- 現在主力の珈琲、パフェに続く新商品の開発へ中期的に取り組む

貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

	平成20年8月期	平成21年8月期	増減額
流動資産	1,394	1,976	581
現金及び預金	851	1,584	733
受取手形及び売掛金	73	65	▲8
たな卸資産	70	60	▲10
その他	398	266	▲131
固定資産	4,123	4,289	166
有形固定資産	2,417	2,596	178
無形固定資産	467	412	▲54
投資その他資産	1,238	1,280	42
資産合計	5,517	6,265	748
流動負債	2,370	2,488	118
短期・1年以内返済等	1,506	1,750	243
買掛金・未払費用・未払金	624	534	▲90
その他	239	204	▲35
固定負債	1,506	2,085	578
社債・長期借入金	1,358	1,924	566
その他	148	160	12
負債合計	3,877	4,574	696
純資産	1,640	1,691	51
負債純資産合計	5,517	6,265	748

資 産

- 現預金の増加 733百万円
- 店舗設備の増加 166百万円

負 債

- 長期・短期借入金の増加 495百万円
- 社債の増加 315百万円

純 資 産

- 利益剰余金の増加 82百万円
- 自己株式の取得 ▲32百万円

キャッシュ・フロー計算書（連結）

TETSUJIN

（単位：百万円）

	平成20年8月期	平成21年8月期	増減額
1 営業キャッシュ・フロー	713	722	9
2 投資キャッシュ・フロー	▲541	665	124
フリー・キャッシュ・フロー (1+2)	172	57	114
3 財務キャッシュ・フロー	▲368	698	1,066
現金及び 現金同等物の期末残高	760	1516	755

[営業CF]

収入の主な内訳

- 税金等調整前当期純利益 291百万円
- 減価償却費 419百万円
- のれん償却 52百万円

支出の主な内訳

- 法人税等の支払額 169百万円

[投資CF]

新規出店等に伴う支出

- 有形固定資産の取得 622百万円
- 店舗入居保証金 156百万円

[財務CF]

- 借入金・社債の増加 2,747百万円
- 自己株式の取得 ▲32百万円



[2] 平成22年8月期 業績見通しと経営戦略

平成22年8月期の業績見通し（連結）

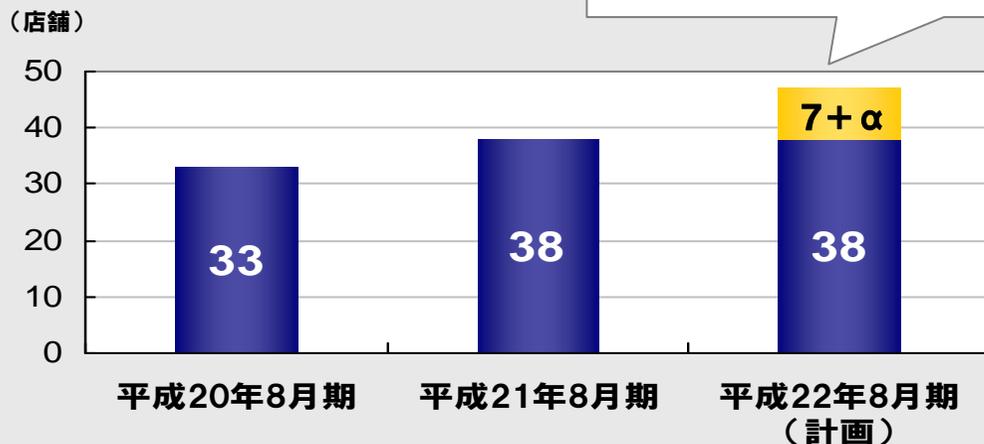
TETSUJIN

（単位：百万円）

決算期	平成21年8月期		平成22年8月期	
	実績	対前年比	予想	対前年比
売上高	7,074	99.4%	7,298	103.2%
営業利益	405	71.8%	484	119.5%
経常利益	349	66.0%	409	117.2%
当期純利益	123	104.1%	140	113.9%
EPS（円）	3,811.77	—	4,373.50	—

- 消費不況の継続およびインフルエンザの影響を考慮し、今期の業績は堅めに計画
- 新規出店は前期並みの7店舗を計画（※うち1店舗（上野店）は出店済み）

出店計画(店舗数)



【カラオケの鉄人・上野店】



カラオケ激戦区だが、需要が旺盛なエリアに新規出店

平成22年8月期の出店戦略

- ◆ 前期と同じ7店舗を計画しているが、景気情勢を見極めながら慎重に出店の可否を判断。
- ◆ 上野店(平成21年9月オープン済み)+α

…ここ数年、比較的競争の激しくない郊外を中心に中型店を展開してきたが、上野店の動向次第では、都市(JR)駅前等の激戦区への出店余地も広がる。

⇒出店戦略の前向きな見直し

モバイル 公式サイト 構築

- 年内に「モバイル公式サイト」の立ち上げ
- 会員システム「マイ歌本」機能をWeb上で編集・管理

⇒ Webサイトとモバイルサイトが連動したサービスの導入

⇒ 会員システム登録者をモバイル会員に誘導

⇒ 従来の主力ユーザーであるカラオケ愛好者層から、一般のライトユーザーへの対応を強化するためのコンテンツとなる。



「マイ歌本」



「モバイル・Web」

◆ 顧客基盤の構造変化

会員システムと
Web・モバイルを
連動

- 会員システム登録者30万人の活用
⇒ 会員割引のための登録から、システム本来の機能を利用するユーザーへの深化
「マイ歌本」利用者の増加（平成21年9月末現在、約6割の会員が利用）
- Web・モバイル会員と店舗の会員登録者をリンクさせ、新たなカラオケプラットフォームを構築

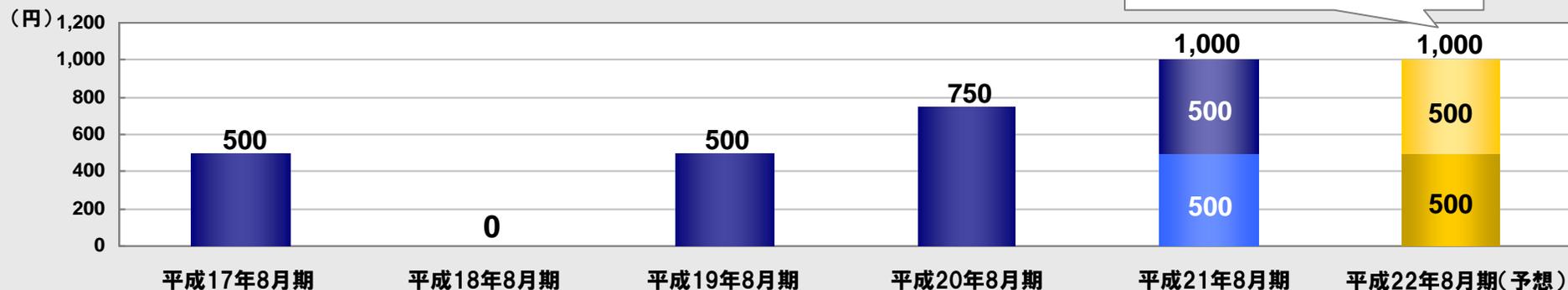
◆ 子会社の統合

連結子会社3社を
1社に統合

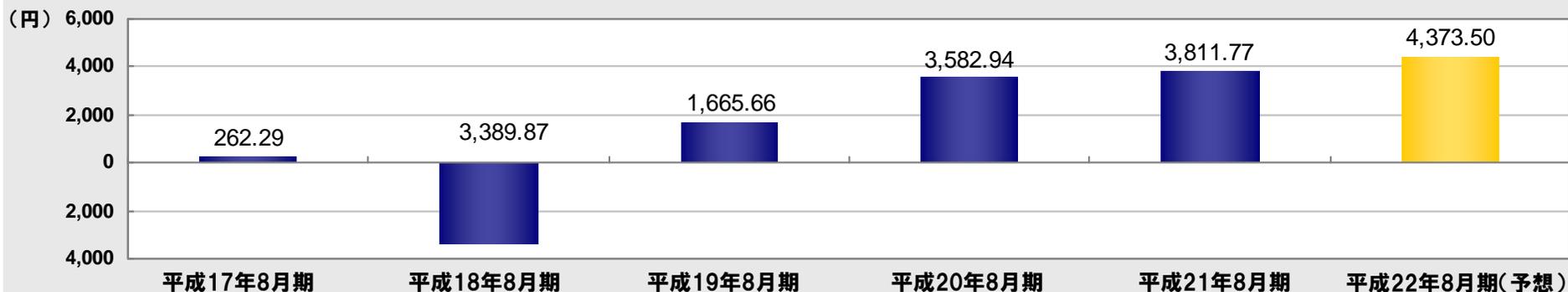
- 平成21年11月1日を効力発生日とし、連結子会社3社を吸収合併
（存続会社：(株)システムプランベネックス）
（消滅会社：(株)エクセルシア・(株)クリエイト・ユー）

経営基盤および競争力の強化、管理コストの削減など、不況下でも利益を出し続けられる体質づくり

配当金の推移



EPS (一株当たり当期純利益)の推移



※平成16年8月期、平成17年8月期は(株)鉄人化計画単体の数値です。また、平成17年10月に株式分割(1:4)を実施しております。

自己株式の取得

- 取得株数: 958株 (発行済株式総数の2.90%)
- 取得期間: 平成20年10月28日～12月30日

【注意事項】

本資料で用いられている業績予想、ならびに将来予測はいずれも当社の事業に関連する業界動向の見通しなど、平成21年9月時点で入手可能な情報をもとにした当社の予想を前提としています。これらは市況、競争状況、新製品や新サービスの導入、およびその成否など多くの不確実な要因の影響を受けることがあります。よって、実際の業績は本資料および決算説明で用いる予想数字とは異なる場合があることをご了解いただきますようお願いいたします。



担当者

取締役副社長
荒武 弘美

管理本部 総務部
長田 由伊

連絡先

TEL 03-5773-9184 FAX 03-5773-9160

E-mail web-ir@tetsujin.ne.jp



参考資料

 株式会社 **鉄人化計画**®
[東証マザーズ 証券コード:2404]

会社概要（平成21年8月末現在）

TETSUJIN

◆ 社名	株式会社鉄人化計画																					
◆ 設立	平成11年12月14日																					
◆ 本社所在地	東京都目黒区中目黒二丁目6番20号																					
◆ 資本金	7億32百万円（発行済株式数:33,068株）																					
◆ 事業内容	「カラオケの鉄人」を中心としたアミューズメント施設の運営																					
◆ 役員	代表取締役社長	日野 洋一	常勤監査役	緑河 久彰																		
	取締役副社長	荒武 弘美	監査役	和田 吉弘																		
	常務取締役	浦野 敏男	監査役	細野 康弘																		
	常務取締役	星川 正和	監査役	金澤 一公																		
	取締役	伊藤 顕聖																				
◆ 従業員数	連結 129名	個別 115名	（※パートアルバイトは含まれておりません。）																			
◆ 株主構成	<p>【株式等の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発行する株式の総数・・・118,560株 ・発行済株式総数・・・33,068株 	<p>【株式の所有者分布状況】</p>  <table border="1"> <tr> <td>自己名義株式</td> <td>958株</td> <td>2.90%</td> </tr> <tr> <td>外国人</td> <td>216株</td> <td>0.65%</td> </tr> <tr> <td>金融商品取引業者</td> <td>330株</td> <td>1.00%</td> </tr> <tr> <td>金融機関</td> <td>1,235株</td> <td>3.74%</td> </tr> <tr> <td>事業法人、その他法人</td> <td>2,424株</td> <td>7.33%</td> </tr> <tr> <td>個人、その他</td> <td>27,905株</td> <td>84.39%</td> </tr> </table>	自己名義株式	958株	2.90%	外国人	216株	0.65%	金融商品取引業者	330株	1.00%	金融機関	1,235株	3.74%	事業法人、その他法人	2,424株	7.33%	個人、その他	27,905株	84.39%		
自己名義株式	958株	2.90%																				
外国人	216株	0.65%																				
金融商品取引業者	330株	1.00%																				
金融機関	1,235株	3.74%																				
事業法人、その他法人	2,424株	7.33%																				
個人、その他	27,905株	84.39%																				

カラオケルーム市場の現状と見通し

市場規模と参加人口の推移

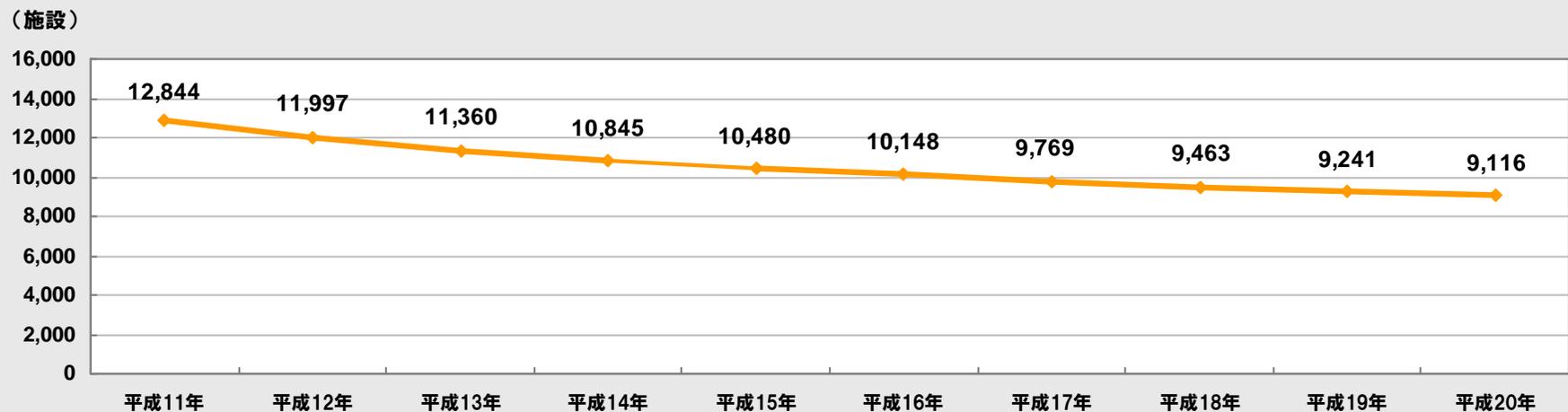
市場規模は横ばい、今後も安定的な推移を予想

■ 市場規模 ◆ 参加人口



施設数の推移

カラオケ施設数は漸減傾向を予想



出所:『カラオケ白書2009』

カラオケルーム市場の現状と見通し

カラオケの鉄人



【高円寺店】



【人形町店】



【王子店】



【上野店】

からふね屋珈琲店本店



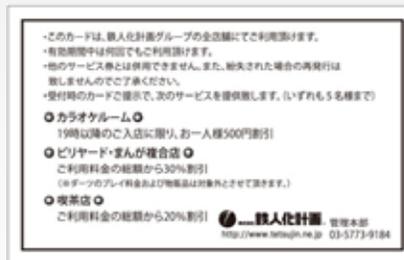
毎年8月31日現在の株主の皆様に対して、下記のいずれか1点を贈呈

株主様ご優待カード

【表面】



【裏面】



特製スポーツタオル



◆ 当社イメージキャラクターをデザインした特製スポーツタオル

からふね屋珈琲ギフト



◆ からふね屋珈琲オリジナル焙煎のドリップコーヒーセット

- ◆ カラオケルーム: 19時以降のご入場に限り、お一人様500円割引 (5名様まで)
- ◆ 喫茶店: 20%割引 (5名様まで)
- ◆ ビリヤード・まんが複合店: 30%割引 (5名様まで)

※各デザインは変更する場合があります。ご了承ください。